

第13回クリーンセンター滋賀環境監視委員会会議概要

1. 日時平成20年12月18日(木)14:00~16:00
2. 開催場所 クリーンセンター滋賀 研修室
3. 出席者 環境監視委員
学識経験者:金谷委員長
住民代表:中島茂委員、中島常浩委員、東委員、
中邨委員、中島仁史委員、渡邊委員
事業者:坂本委員
滋賀県:森井委員
甲賀市:稲葉委員、一宮委員(代理出席)、松山委員
環境事業公社:對中委員
事務局:財団法人滋賀県環境事業公社



4. 議事概要

(1). あいさつ(公社 對中常務理事)

(2). 活動内容(所長説明)

○場内道路整備について(資料1)

○クリーンセンター滋賀のDVD上映

○展開検査状況、廃棄物埋立状況等のビデオ上映

○事例報告等

- ・県道の脇道で廃棄物の水切りをしながら時間待ちをしている車両があったので注意した。
- ・廃棄物はシートカバー若しくは梱包するよう指示しているが、ロープだけの車両があったので注意した。
- ・展開検査について、ばいじんの場合、水と混ざらないものもあり、展開してしまうと埃が収まらないこともある。従って、密閉された状態で運搬されてきたものについては上部から内容を確認してそのまま埋立を行うようにしている。
- ・ガラス陶磁器くずはいろいろなものが混ざっていることがあるが、展開検査で確認したところ、石綿含有のスレート板が混ざっている事例があった。これについてはガラスと石綿含有物を区分し埋立を行った。
- ・廃プラスチックの中に電子部品の含まれるものがあった。電子部品を含まないのがセンターの基準なのでその部分を取り出して持ち帰ってもらった。
- ・廃置を法面に敷設しているが(法面保護材として)、これは繊維くずではなく廃置として受け入れをしている。この受け入れは豊工業協同組合と協定を締結し、受入量、時期を調整し、行っている。

○搬入実績の説明(H20.12.10 現在)

- ・搬入総量は約3200t、うち88%が廃棄物ではない残土である。覆土にも活用できることから、管理を要する残土として廃棄物の判定基準と同様の基準により受け入れている。11月下旬~12月上旬にかけて大規模な搬入があった。
- ・廃棄物の搬入量は375tであり、その90%が管理型物であり、廃石膏ボード、建設系混合廃棄物が中心。安定型物はガラス陶磁器くず、廃プラスチックが少しと石綿含有廃棄物がごくわずかとなっている。

○管理型物の大規模処分について

- ・平成21年1月上旬から3月中旬にかけて、有機汚泥の大規模処分が予定されている。

【主な意見および質疑】

- ・燃えがら・ばいじんは何からどういう工程で発生したものなのかを確認した上で受け入れをして欲しい。これら以外のものは特に大きな問題になるものはないと思っている。
→発生工程、現場調査等を行い確認をしている。ばいじんについては現在までに2社受け入れを行っており、1社は焼却施設からのもの、1社はカーボンの微細粒子を集塵機で集めたものです。これらはサンプリングを行い、成分を確認しています。燃えがらも同様に現地を確認しています。
- ・一般的な考えでは、最終処分場は何でも捨てられ、ひどいものを持ってこられるというイメージが強い。実際のところそうではなく許可された品目のみを扱っている。また、施設にはいろいろな装置があるが、これらを使用しないと処理できないというのではなく、何か起こったときに対処できるよう設置されているものもある。おおかたの最終処分場ではここまで対応されているところは少ないと思う。県(クリーンセンター滋賀)でやっている水準がいかにか高いかということもPRしていくことも必要ではないか?
→当センターの特色として・展開検査、管理型4品目の成分分析が挙げられます。これらとともにPRしていきたい。
- ・廃棄物是不均一なので、サンプリングを行うときは何力所から取って混ぜるなどの対応を行ってみたい。
→なるべく工夫していきたい。

- ・事前のサンプリングも同様に何カ所から取って混ぜるなどの対応を行ってみてはどうか？
- 現地で採取するときはなるべく満遍なくサンプリングしている。
- ・成分分析の照合では、なかなかぴったりとは合わないものと思うが、それを判断する明確な基準が必要になると思う。
- 現在、データを蓄積しているので、これらを参考にしながら決めていきたい。
- ・埋立手順、展開検査等、いろいろなマニュアルが必要になるのではないかな？
- マニュアルとしては作成しているが、運用状況等で見直しをしていきたいと考えている。
- ・チェックシートを作成し、排出業者に対して何が悪かったのかを具体的にいえるようにしたらどうか？
- 受け入れで問題があった場合に返すシートは作成しているが今回のケースはそこまでのことではなかったので運転者に伝えることとした。水切りをしていた件については、運転者だけでなく業者にも電話で注意した。
- ・次回までにデータの蓄積も進んでいると思うので、展開検査、分析等の方向性を示してもらえないかな？
- 出来るだけ対応したい。
- ・サンプリング、荷下ろしの人の安全面で心配なところがある。このままでは災害が起こると感じた。サンプリングでは2つのものを持ちながら荷台を上り下りしていたし、荷下ろししていた人は荷台から飛び降りていた。フレコン等を裂いていた人は作業時にゴーグルを着用していたようには見えなかったし、またダンプが動いているのにその後ろを人が通っていたりした。
- 作業の安全面について検討します。
- ・フレコンを吊っているが、フック(滑り止め装置のある)がついている必要があると思う。埋立作業を行うのに中にまで突っ込んでいようなので作業改善という意味で監視員の指導が必要ではないかな？また、埋立については作業効率が悪く、容積が低下しているのではないかな？工夫が必要では？
- 即日覆土のため、搬入量が少ないと容積的に効率は悪くなる(廃棄物の割合が低くなる)。作業の安全性については気をつけていきたい。
- ・仮保管庫に一時保管して後日まとめて埋め立てすることは出来ないのかな？国からの指示で少量でもすぐに埋立を行わなければならないのかな？
- マニフェスト等の関係もあるが、2~3日ぐらいでまとめて埋め立てするのは出来ないことはないが、今の時点では即日埋立を基本として考えている。
- ・廃棄物と覆土の比率はどれぐらい？
- 現在のところ、はっきりしたことは分からないが感覚的に1:1ぐらいになっていると思う。計画では7:3ぐらいです。(搬入実績について)
- ・契約実績のない廃棄物がなかには見受けられるが今後はどうなるのかな？
- 現時点で廃棄物の受け入れ実績のないものもあるが、契約の出来ない品目はありません。
- ・有機汚泥は下水道のものですか？
- 下水道のものを大量に入れるということは考えていないが、スポット的に出てくるような場合は受け入れを考えている。この時の状態は脱水汚泥の状態だと思うが、基本的に汚泥は焼却して処理されるものなのでその形での受け入れになると思います。
- (管理型物の大規模処分について)
- ・有機汚泥はどんなものですか？いつ頃出てきたものですか？
- 昭和45年~47年頃埋め立てられたもので、生物処理され凝集沈殿した後の汚泥です。強熱減量は小さいものです。現場の確認は終わっていて、サンプルももらっている。
- ・1日30台以上(1時間当たり約4台)とあるが、出来るのかな？
- 現地確認を行うことにより(搬入中も定期的にも行う)、展開検査にかえるとしているので可能と考えている。
- ・埋立作業はついて行けるのかな？
- 状況をみて必要があれば埋立作業員を増やす予定でいる。

次回の環境監視委員会は、3月に開催予定。